

抄録

結核専門雜誌

Zeitschrift für Tuberkulose

Band. 48, Heft 4, 1927.

1、肋膜、心嚢膜、及横隔膜腹膜面ノ知覺
特ニ横隔膜神經ノ關係

Erich Simenauer.

著者ハ胸部ノ臟器及胸腔ニ於ケル知覺ニ就キテノ科學的實驗ノ少キ事ヲ説キ自己ノ實驗ニ就キテ報告セリ。

著者ハ九例ノ患者ニ就キテ胸内檢鏡及腹内檢鏡ニヨリテ實驗ヲ行ヒタリ。

肋骨胸膜、肋骨胸膜ニ就テ接觸、壓迫、刺スコト、及溫度ニ對スル過敏度等ヲ檢セシニ弱キ接觸ハ多クノ場合ハ感ぜズ、可成強キ壓迫、ハ常ニ壓迫トシテ感ズ、又相當強キ刺スコトニツキテハ刺ス感覺トシテ感ズ、多クノ場合ハ接觸部ノ肋間神經ノ經過ニ沿フテ感シタルモ一例ニ於テハ明ニ局部的ニ感シタリ、一例ノ溫度感ハ感ぜズ、一回、熱ヲ疼痛トシテ感ズ。

内臟胸膜、之レハ總テノ刺戟ヲ感ぜザリシガ唯一回強キ壓迫ニ對シテ不快ナル限局セザル疼痛トシテ感シタリ。

横隔膜胸膜、溫度以外ノ總テノ刺戟ハ横隔膜胸膜ノ中央部ヲ刺戟スル時ハ肩胛ニ疼痛トシテ感シタリ、又横隔膜胸膜ノ邊緣部ニ於ケル刺戟ハ「C」Zノ部分ニ相當セル部分迄擴リタリ。

横隔膜腹膜、腹内檢鏡ノ際ノ一例ニ於テハ溫度ノ試験ヲ缺キタルモ他ノ刺戟ニ對シテハ肩胛部ノ疼痛ヲ強ク感シタリ。

心嚢膜、之レハ三例檢シタルノミナルモ部位ニヨリテ感覺ヲ異ニス、心尖部ニ於テハ壓迫感トシテ左腕ニ擴リ、右心室ノ上ノ接觸及ビ壓迫ハ感ぜズ、強キ壓迫ハ不快ニ第四肋骨ニ沿フテ限局性ニ感ゼラル。炎症ノ甚シキ心嚢ニ於テハ刺戟ヲ受ケズ。

尙著者ハ之レニ就キ神經ノ解剖學的關係ニ就キテ記セリ。(小林抄)

2、ワルブム氏ノ肺結核金屬鹽療法

N. Lande.

ワルブム氏ハ「カドミウム」鹽ヲ用ヒテ結核治療ヲ行ヒタリ。「カドミウム」鹽ヲ最初 $\frac{1}{20}$ mg.乃至 $\frac{1}{10}$ mg.ヲ生理的食鹽水ニ溶解シテ注射ス $\frac{1}{10}$ mg.ニ於テハ反應ヲ起シタルモ他ノ多クハ反應ヲ起サズ、著者ハ此試驗ヲ結核菌ヲ證明シ得タル肺結核患者三十八例ニ行ヒテ、其中二十四例即チ六三・三%ハ結核菌ガ減少セリ。

四十八例ノ肺結核患者ニ就キテ體重ノ關係ヲ觀察セシニ平均六・四斤ノ體重増加ヲ示ス、又三十八例ハ一般のニ治療ノ傾向ヲ示シタリ。

反應トシテハ一例ハ發熱四十度ニ至リ其他三十八度以上ノ發熱ヲ起スコトアリ、又腹膜、及肋膜等ニ反應ヲ起シタルコトアルモ二日乃至七日持續セルノミナリ、四例ハ淋巴腺反應ヲ起シタルモ膿腫ヲ造ラズ、肺ノ反應ハ血液及小咯血ヲ起シタリ、然シ是等ノ反應ヲ起シタル例ニ於テモ其後良好ナル經過ヲ取レリ。

又「カドミウム」及「ランタン」ヲ用ヒテ動物試験ヲ行ヒ比較的確實ナル事實ヲ次ノ如ク總括セリ。

注射ニヨリテ罹患セシメタル結核動物ノ治療ニ於テハ刺戟的ノ少量ニ於テ效果ヲ有ス、罹患動物ヲ弱ラセザル事ト弱リタル動物ヲ快方ニ赴カシムルコトハ疑ヒナキコトナリ。組織ノ共同作用ニ間接ニ效果ヲ有ス。一時ニ多クノ溶菌作用ヲ起シ動物ノ中毒死ヲ起ス危險アリ。短キ時期ニ全部無菌ニセシムルコトハ望ミ難キコトナリ。

此療法ニヨリテ罹患セルモノ、組織ノ機能ヲ増加セシメ及機能ヲ維持セシメテ可成リ長ク結核ニ對抗スルコトヲ得。

(小林抄)

3、新陳代謝抑壓ニヨル肺結核治療ノ原理

G. Jacobson.

對結核戰ニ於テハ直接菌ニ化學的ニ作用セシムルコトハ不可能ナルノミナラズ、反ツテ組織ニ惡シク作用スルモノナリ。然ルニ患者ノ生活條件ヲ良好トナシ組織ノ抵抗力ヲ高ムル時ハ良好ナル結果ヲ得ルモノナリ。

著者ハ此信念ノ元ニ肺結核治療ニ或ハ「アクロゲン」等ヲ使用シテ新陳代謝抑壓ヲ行ヒ又、持續セル人工氣胸ヲ行ヒテ肺ノ安靜ヲ保タシメ其新陳代謝ヲ抑壓セシムル療法ヲ行フ事ヲ説ケリ。

(小林抄)

4、肺結核ニ於ケル新陳代謝抑壓「アクロゲン」療法ノ經驗

C. Pridel.

著者ハ痛風、糖尿病、バセドウ氏病等ト結核トノ關係及新陳代謝ニ關スル關係ヲ記シ、次テ性慾ト結核トニ關シテ新陳代謝ノ關係ヲ論ジ、次テ肺結核ハ其病期ノ輕キ場合ニ於テモ又、輕キ病型ニ於テモ新陳代謝ヲ亢進セシム、尙「ホルモン」ノ新陳代謝亢進モ結核ニ惡影響ヲ與フル故ニ肺結核ノ有效ナル

抄 録

療法ハ新陳代謝抑壓ニアリトナシ、「アクロゲン」療法ヲ行ヘリ。著者ハ肺結核患者、三期十四例、二期二十七例、即チ四十一例ニ安臥療法及大氣療法ヲ行ハシメツ、「アクロゲン」療法ヲ行ヒシニ三十七例ハ他覺的ニ輕快シ、一例ハ變化ナク三例ハ増悪セリ。此成績ヲ肺所見、體溫、喀痰、體重等ノ點ニ就キ表ニテ精細ニ説明セリ。

(小林抄)

5、肺結核ノ新舊桂酸療法ニ就テ

T. Sternberg.

桂酸療法ハランデレル氏ノ業績ノ發表セラレテヨリ多クノ興味ヲ以テ試ミラレタリ、特ニ「チンナモール、パラオキシフェニール」尿素ナル「エルボン」ハ種々試ミラレタリ。

桂酸鹽ハ非特異性ノ刺戟作用ヲ有スルモノニシテ持續的ニ投藥ヲナスコトヲ得、攝取セラレテ血液及組織中ニテ安息香酸ニ分解ス、一般的ニ解熱作用ヲ有シ局所ノ分泌抑制作用ヲ有ス、病竈ノ影響ハ全體ノ成績ニ於テ惡シカラズ。

(小林抄)

6、患者ニ於ケル肺結核ノ人工氣胸療法

Janev. Fine

著者ハ最近七年間ニ二百八例ニ人工氣胸ヲ行ヒ危險ナク、千八百回ノ追施行フ事ヲ得タリ而シテ著者個人ノ經驗ニヨレバ人工氣胸ハ初期及少シク進行シタル時期ニ行フヲ可シトス、人工氣胸療法が病院及「サナトリウム」等ニ於テ行ハル、外患者ニ於テ行ハル、ハ近日ノ事ナラン、而シテ勿論衛生的ナル結核療法ト信頼ス可キ醫者トニヨリテ患者ニ於ケル療法が行ハルレバ著者ハ患者ニ於ケル人工氣胸ヲ推奨セリ。

(小林抄)

7、人工氣胸施行ニ際シテノ手技ニ就テ

Franz Loben.

人工氣胸ヲ適應症ニ施ス場合ノ治療上ノ價值ニ就キテハ議論ノ存セザル所ナルモ其施行ニ當リテ臨牀的ノ觀察ニヨリテ施行スルヲ可トス、局所麻醉ハ充分注意シテ強ク肋膜ニ浸潤セシメ麻醉液ノ肋膜腔内ニ入ルコトヲ避ク可シ。先ツ皮膚及ビ皮下ヲ細キ切截刀ヲ以テ切開シタル後次テ針ヲ穿刺ナス可シ。

(小林抄)

Zeitschrift für Tuberkulose

Band 48, Heft 5, 1927

8、X線像ニ於ケル肺結核ノ分類問題

H. Assmann

著者ハ臨牀的ニ見テ肺結核ノX線像ニヨル Graef-Küpferte ノ肺結核ノ分類ト Fraenkel-Albrecht ノ分類上ノ「シエマ」ハ殆ンド相一致セルモノテ又豫後の價值ハ前者ハ必ズシモ後者ニ優レテ居ナイ事ヲ論ジテ居ル。(寺尾抄)

9、小兒ニ於テ「テベプロチン」注射後ニ現ハ

ル、血像變化ノ診斷學的意義ニ就テ

P. Schumowsky.

著者ノ試験ヲ約言スレバ小兒ニ「テベプロチン」ヲ注射シタル場合ノ血像ハ他ノ臨牀上ノ症徴(臟器所見「テベプロチン」及舊「ツベルクリン」試験、赤沈試験等ノ表現)ヲ併合シテ初メテ豫後判定ニ主要ナルモノトナシ得ル。「テベプロチン」ニヨリテ血液ニ起ル陽性反應ハ疾病ガ結核性特質ヲ有スル事ヲ示ス一ノ徴候デアルトシテ應用シテヨイ。反之反應ノ強サカラシテ罹患ノ重サヲ決

定スルニハ大ナル注意ヲ要スル。所謂陽性反應ノミアラハレテ他ノ罹患ノ徴候ナキ場合ハ結核性感染ノアル事ヲ物語ツテハ居ナイ。又「テベプロチン」注射後血液中ニ何等陽性反應ナキ場合ニモ結核ヲ確實ニ否定スルコトハテキナイ。

(寺尾抄)

10、結核患者ノ白血球ノ毒素ニヨル變化

Mayer 業績ニ對スル注意

V. Schilling

11、肺結核ニ於ケル鍛練療法ニ就テ

F. Wolf.

結核治療上安靜療法ニ對抗シテ適當ナル筋肉鍛練ヲ必要トスル。著者ハ二十五年前行ハレタル Erni 氏叩打法 (Klopfmethode) 及ビ Transing カ最近創案シタル聲力鍛練法ヲ説キ是等ハ喉頭ヲ適當ニ調整シ且ツ肺ノ通氣ヲ真好トスルモノニシテ新陳代謝ヲ促スト同時ニ結核患者ノ重篤ナル徴候ヲ消散スルモノナレバ特ニ Transing 法ヲ推奨スト云フ。(寺尾抄)

12、コッホ菌ノ毒力問題及其實驗的結核ニ對

スル成績ニ就テノ補遺

Wm. Bohme

一、「モルモット」ニ對シ病原性高キ結核菌ヲ毒性ヲ減弱セシメ之ヲ遺傳セシメントスル方法ハ現今ニテハ未ダシ。
二、「モルモット」及他ノ試験獸ニ對シテ之ヲ免疫セシメントスル培養ノ毒力ノ強サヨリモ嚴ニ限局セル防禦感染ヲ目的トセル蓄積法ヲ講ズルヲ以テ必要トスル。

三、一九二一年ニ著者ノ創案シタル豫防治療の皮膚接種法ヲ以テ著者ハ理論的ニモ實際的ニモ確實ナル方法トス。

四、「モルモット」ニ病原性高キ結核培養ノ毒力低下ノ方法ハ熟練シタル技術ニヨリ食鹽水乳劑トセバ達成シ得。

五、是等ノ方法ハ著者ノ淋巴培養ニヨリ實驗的免疫研究ヲナスニ多方面ニ互リ新可能性ヲ示スモノナリ。

(寺尾抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose.

66. Band. 4. Heft. 1927.

13、刺戟性「ツベルクリン」注射後ニ於ケル赤

血球沈降反應

K. Iselter,

刺戟性「ツベルクリン」注射後結核症狀缺除セル場合ニハ赤沈速度ノ促進ナシ。結核性肺病竈ヲ有スル時ハ其狀態種々ニシテ活動性結核ハ一般ニ非活動性ノモノヨリ赤沈反應ノ促進スル事多ク且ツ赤沈反應曲線ノ高位ニアル事長シ。此方法ノミニヨリテ結核ノ活動性、非活動性ヲ合理的ニ區別スル事ハ不可能ナリ。

(春木抄)

14、同種血球凝集反應測定ト結核

B. Kalabis,

同種血球凝集反應測定ニヨリテ一ノ生物學的結核素因ヲ發見スル可能アル事ヲ説ク。

(春木抄)

15、肺結核ト月經周期

P. Haege,

抄 録

著者ハ四六九例ノ調査ニヨリテ肺結核ノ月經周期ニ及ボス影響ニ關スル從來ノ文獻ヲ確認スル事ヲ得ザリキ。

無月經及ビ月經周期不順ハ僅カニ一七四%ニ過ギズシテ肺結核ガ月經周期ニ一定ノ影響ヲ與フルト云フ事ヲ得ズ。

(春木抄)

16、結核ニ於ケル糖代謝ト「インスリン」肥胖

療法

Shlapper und Kirchner

輕症及ビ中等症ノ結核ニ於テハ血糖量ハ正常値ノ範圍ニアルモ重症ニ於テハ稍々減少ス。

「インズリン」或ハ「ジントリン」ヲ用ケル時ハ血糖量ハ降下シ輕症無熱性非活動性或ハ稍々活動性ノ場合ニハ著明ナル食欲ノ増進ヲ來シ其結果體重ノ増加ヲ來ス。

最モ體重ノ増加ヲ來セルハスチレル氏體質ヲ有スル初期活動性結核ナリキ。

著明ナル活動性結核ニ於テモ輕症ナル場合ニハ饑餓感ヲ増大セシモ一定程度以上ノ體重増加ナク重症ニ於テハ全ク效果ナカリキ。

「ジントリン」ノ作用ハ「インズリン」ニ比シテ劣レリ。

之レヨリ重篤ナル結果或ハ病竈反應ニヨル増悪ハ觀ラレザリシモ「インズリン」ヲ以テ患者ヲ治療スル場合ニハ持續的ニ患者ノ狀態及ビ血糖量ヲ觀察スル必要アル故ニ外來結核患者ニ行フ事ハ推奨スル事能ハズ。(春木抄)

17、ワッセルマン氏結核反應ノ臨牀的經驗

E. Bittner

一一五

著者等ノ試験ニヨレバ同反應ハ充分ナル特異性ヲ有シ二五例ノ對照ニ於テ陽性反應ヲ呈セルハ一一%ニ過ギズ猶強陽性ヲ呈スルモノ、ミヲ算セバ5%以下トナル。

黴毒ニ於テ偶然本反應陽性ヲ示ス事アルモ少數ニ過ギズ、著者ノ全試験例ヲ見ルニ確實ナル活動性結核中七六%ノ陽性率ヲ示ス。故ニ同反應ハ結核ノ總合的診斷上ニ於テ充分價值アル一要素トナリ得ルモノナリ、然レ共同反應ヲ重シ過ギ之レノミニヨリテ診斷ヲ決定スル事ハ注意セザル可カラズ、同反應ハ短時日内ニ變化スル事アル故ニ疑ハシキ場合ニハ繰リ返シ行フコトヲ奨ム。

ワツセルマンガ最初ノ本業績ニ於テ有セシ希望ハ多ク充サレザリシモ同反應ハ此複雑、困難ナル方面ヲ開拓セルモノニシテ彼ニ猶研究ノ時日ナカリシ事ヲ惜ム。

操作ニ就キテ云ヘバ「アンチゲン」製造困難ナルタメニ一定ノ反應ヲ呈セザル事アリテ血清化學研究室以外ニ於テハ實施スル事困難ナリ。(春木抄)

18、肺ニ於ケルステルンベルグ氏病ハ特有ナル病症ヲ呈スルカ

Tore Lind.

ステルンベルグ氏病二例ノ病歴、解剖所見ヲ掲ゲテ、從來記載セラレタル同病ノ症候ト比較シ肺ニ於ケル惡性淋巴瘤ハ臨牀上ニ診斷シ得ル程度ノ特有ナル症候ヲ呈スルヤ否ヤニ就キテ論ズ。(春木抄)

19、家兎ニ於ケル氣管内感染ニヨル結核病竈形成ニ就イテ

附、海狸結核ノ病理組織學、第四

氣管感染ニヨリテ惹起セシメタル肺ニ於ケル結核性病竈ナルガ形態學的特徴ヲ呈スルカ否カノ問題ニ就キテハ論セザルモノナリ。(春木抄)

20、實驗家兎結核ニ對スル「サノクリジン」ノ影響

影響

Opitz, Kozulla, Wäcker.

「サノクリジン」ハ家兎ノ急性或ハ慢性結核ニ對シテ臨牀上及ビ病理解剖上ニ何等ノ影響ヲ與ヘザル事ヲ可成詳細ナル實驗ノ下ニ報告ス。(春木抄)

21、結核ニ於ケル鹽類損失

Ludwig Umetin.

文獻ヲ通覽スルニ鹽類損失ト結核トノ間ニ特別ナル相互關係アル事ヲ見出す事ヲ得ズ。

ゲルゾン氏食餌ノ第二ノ目的タル「アチドーシス」ヲオコス點ニ於テハ認めラズ、同食餌ハ「アルカリ」ヲ多量ニ含メルガ爲メナリ、且ツ、ゲルゾンガ同食餌ニヨリテ鹽類沈著ヲ起サントヤシガ此目的ニ向ツテハ酸性食餌ヨリ「アルカリ」性ノモノガ遙カニ適合セリ。

著者ハ三五名ノ肺結核患者ニゲルゾン氏食餌ヲ與ヘテ臨牀的ニ觀察セル結果ヲ從來ノ衛生營養療法ニ從ツテ治療セルモノト比較シテ何等差異無キ事ヲ發表セリ。(春木抄)

22、ゲルゾン氏食餌ニヨル皮膚結核ノ影響

P. Wichmann

ゲルゾン氏食餌ガ皮膚粘膜、骨結核ニ良好ナル影響ヲ及ボスモノトナス。

(春木抄)

23、ウエレミンスキー氏「ツベルクロムチン」

ヲ以テセル肺結核ノ治療

P. Starcke untl E. Hickels,

本「ツベルクロムチン」ハ結核ノ特種治療上ニ何等ノ新事實ヲ提供セルモノニ非ズ、反應ハ舊「ツベルクリン」ニ比シテ一般ニ永續シ且ツ不規則ナリ、又診斷上ニ於テモ他ノ特種治療劑ニ勝レル點ナシ。
有害作用ハ無ク病竈反應モ弱ク且ツ持續時間短シ。
(春木抄)

24、人工氣胸及ビ保守的療法ノ持續的效果

其比較

A. Kaykowski

人工氣胸療法ヲ行ヒル患者ハ同程度ノ適應症ニシテ之レヲ行ハザリシモノニ比シテ死亡率、生存期間労働能力ニ於テ勝レリ。
一般ノ經濟狀態恢復ニヨリテ患者全般ガ良好ノ經過ヲ取レルモ人工氣胸ヲ行ヒシ者ハ其程度ニ於テ行ハザリシモノニ勝レリ。
(春木抄)

25、孤立性結核性淋巴腺腫ノ外科的療法

M. Neumann

著者ノ經驗ヨリ最モ迅速ニ治療セシメ且ツ出來ル丈ケ外觀ヲ損ハザル手術方法ヲ記述ス。
(春木抄)

26、結核ノ金療法

G. Spiess

金ガ特異性ニ結核性病變ヲ治療セシムル作用アル事ハ疑フ可カラズ唯今日ノ問題ハ如何ニシテ有效無害ナル金製劑ヲ製出センカニアリ、一ノ「サノクリ

シン」ガ有害無効ナリトテ金ノ結核ニ對スル價値ヲ低ムル可キニアラズ。

27、「ツスフトール」—喀痰中結核菌消毒

用新藥

K. Klein und Heilmannfeld

「ツスフトール」ハ五%ノ濃度ニ於テハ普通ノ井水ヲ以テ安定ニ一樣ナル浮游液ヲツクル事ヲ得、而シテ同液ハ粘稠ナル喀痰ヲ溶解スル點ニ於テ從來ノ消毒藥ニ勝リ且ツ二時間以内ニ確實ニ結核菌ヲ死滅セシム、此消毒時間ノ短縮ハ他ノ喀痰消毒藥ヲ凌駕スルモノト思ハル。
著者ハ尙本劑ニ就キテ更ニ多數ノ試驗ヲ續行セントスル意志ヲ有ス。
(春木抄)

28、麻疹ノ結核發生及ビ其活動性化ニ對スル

意義並ニ之レニ對スル結核保護所ノ對策

E. Klein

小學生徒ノ麻疹流行ノ觀察ニヨリテ麻疹ハ結核菌傳染ノ好培地ヲツクリ且ツ休止セル結核病變ヲ活動性ニナスコトヲ知レリ、之レニ符合スルハ麻疹「アチルギー」ニシテ之レハ著者ノ經驗ニヨルバ三週間モ持續スルコトアリ。
麻疹ニ對シテハ接觸傳染ヲ防グ事不可能ニシテ且ツ免疫學的豫防モ今日ニ於テ未ダ發見セラレザル故ニ結核保護所ニ於テハ素質改善ニヨル豫防ニ努メザル可カラズ。

カ、ル場合ニハ開放性結核ヲ有スル家族ニ對シテ其兒童監視ノ必要上報告義務ヲ課ス可キモノナリ。

健康家族ノ非結核兒童ニ對シテハ特別ノ保護ハ要セズ。
(春木抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose
66. Band. 5. Heft. 1927

29、肺臓「レントゲン」像ニ現レル輪狀陰翳

ハ何ニ基ケルカ

W. Curschmann.

二十例ニ就イテ三一葉ノ「レントゲン」寫眞像ヲ掲ゲ、既往症、臨牀の所見等ヲ詳記シ、各例ニ就イテ結論ヲ與ヘ、最後ニ總括トシテ殆ンド輪狀陰翳ノ大
多數ハ空洞ト看做シテヨイト記述シテ居ル。
(鴻上抄)

30、肺結核患者ニ於ケル擬性空洞ニ就イテ

W. Pagel.

結核病竈特ニ初感染或ハブール氏竈ニ空洞ヲ形成スルコトガアル。之ヲ擬性
空洞ト唱ヘテ居ル。此ノモノハ、單純ナ肺氣腫性空虛デアアルコトモアリ、或
ハ局限性氣管枝擴張ノ場合モアル。是等ノ空洞ニ結核性變ガ第二次のニ波及
スルコトモアルガ、原發性結核空洞トハ根本のニ分離ス可キモノデアアル。
(鴻上抄)

31、「ツベルクリン」問題ノ研究

A. V. v. Frisch.

「ツベルクリン」注射ト、一般蛋白質體ノ非經口の應用ノ際ニ現レル反應ノ状態
ヲ比較研究シタモノデアアル。
(鴻上抄)

32、フリードマン氏製劑ノ實驗

M. v. Jabarezy und R. Köpf

本製劑ニテハ自覺的症狀ハ大多數ニ於テ變化ガナイ。又他覺的徵候トシテハ
體重ハ増加シタガ注射ヲ施シタ者モ然ラザル對照患者モ、同様ノ比率デア
カラ特ニ注射ノ爲トモ思ハレナイ。其他熱、咯痰、血痰等ニハ注射ノ前後變
化ガ認メラレヌ。打診上ニハ變化ガ無イガ、聽診上ニハ却テ増悪シタモノガ
多イ。「レントゲン」像ニ於テモ亦注射ヲ施シタモノト然ラザルモノトニ於テ
相異ヲ認メナイ。血清學的ノ研究ニ於テモ變化ガナイ。結局本製劑ハ無害無
效ノモノデアアラウ。
(鴻上抄)

33、ノイベルグ、クロブストツク及レーマン

ファチウス、レシユケーノ結核反應ノ實

驗

L. Baudé.

ノイベルグ、クロブストツク氏ノ反應ハ、二〇%ノ安息香酸「ナトリウム」
溶液ニテ結核菌ヲ浸出シタモノヲ「アンチゲン」トシテ補體結合反應ヲ行フエ
デアアルガ、著者ハ結核及非結核者七〇〇例ニ就イテ實驗ヲ試ミタルニ、本
反應ハ特ニ活動性結核患者ニ多數ニ陽性ヲ呈スルモ、反應陰性ナリトテ結核
ノ存在ヲ否定スルコトハ出来ヌ。又本反應ハ微毒患者ニモ非特異性陽性反應
ヲ呈スルガ故ニ、ワツセルマン氏微毒反應ヲモ同時ニ施行スル必要ガアル。
弱陽性反應ハ結核以外ノ疾患ニ於テモ現レルカラ、單ニ血清學的ノ結果ノミ
ニ依ラズ、爾餘ノ検査ノ結果ト總合シテ批判ヲ下セバ結核診斷上ニ甚ダ有利
デアアル。

レーマン氏等ノ反應ハ結核組織ノ浸出液ヲ使用スル沈降反應デアツテ、其ノ
操作ハ至極簡單デアアル。本反應ヲ二〇〇例ニ就イテ實驗ヲ試ミタガ、本反應
モ結核診斷上ニ頗ル重用ナモノデアツテ、大多數ニ於テ正鵠ナ結果ヲ齎ラス

モノテアル。

(鴻上抄)

34、肺臓疾患ノ血液内「ヒヨレステリン」測定

M. v. Babarczy.

肺結核患者ニ於テハ正常テアルカ、低下セルカ、或ハ昂騰セルカテアル。「ツベルクリン」過敏性状態ニアルモノ、大多數ニ於テハ血液内「ヒヨレステリン」含有量ハ低下シテ居ル。

(鴻上抄)

35、ベスレドカ氏補體結合反應マテフィ氏反應及赤血球沈降反應ニヨル結核ノ血清診

斷ニ就イテ

W. Hilgers und G. Terholz

ベスレドカ氏反應ニテハ臨牀的ニ確定セラレタ結核ノ四〇%、開放性結核ノ六六%ハ同等ノ陽性曲線ヲ示シ、赤血球沈降反應ニテハ四七%ト七二%トニ於テ速度低下ヲ認め、マテフィ氏反應ニテハ一九%ト三一%トハ常ニ陽性反應ヲ呈シタ。

(鴻上抄)

36、補體結合反應ニ依ル人型ト獸型結核菌トノ鑑別問題ニ關シテ

O. Kirchner.

補體結合反應ニ依ツテハ人型ト獸型結核菌トノ區別ヲ行フコトハ出來ナイ。種々ナル「アンチゲン」ヲ使用シテ、六種ノ血清ニ「アンチゲン」遞減法及血清遞減法ヲ使用シテ比較シタガ、此ノ間ニ何等ノ相違ヲ認めナカッタ。

(鴻上抄)

37、氣管内注射ニ因ツテ惹起セラレタ海狸結核ノ肺臓内病竈ノ形態ニ就イテ

W. Pagel.

氣管内注射ニ因ルモノハ吸引感染ニ比較スレバ組織學的ノ形態上ニ於テ、多クノ相違スル點ガアルト述べ、之ヲ詳記シタモノテアル。

(鴻上抄)

38、結核海狸ノ白血球像

I. Buelheim.

結核海狸血液像トシテハ、中性多核球及單核球ノ增多症ヲ起スモノテ、慢性的ノ金屬中毒ニテハ、此ノ二ツノ現象ハ増加スルガ、「ヒヨレステリン」飼養ニ依ツテハ單核球ハ減少スル。金屬中毒及「ヒヨレステリン」飼養共ニ結核海狸ニテハ著シク淋巴球ガ減少スル。此ノ結果ハ病理形態學上ノ結果ト好ク一致スルモノテアル。

(鴻上抄)

39、健康及結核家兎ノ肺臓組織ニ及ボス人工氣胸術ノ影響

K. Henins.

多數ノ例ニ就イテ望見上、理學的所見上、「レントゲン」及病理解剖學上ヨリ觀察シテ仔細ノ報告ヲ試ミラレタモノテアル。

(鴻上抄)

40、結核家兎ニ饑餓及葡萄狀球菌傳染ノ及ボス影響ニ就イテ

K. Henins.

動物實驗上ノ結果ハ從來ノ臨牀的及統計的ニ得タ觀察ト甚ダ長ク一致スルト

唱へて居ル。

41、結核患者ニ於ケル肺出血ノ成因

(鴻上抄)

W. Pagel.

肺出血ノ成因ニ關シテ二三ノ注意ヲ掲ゲテアル。

42、類脂體ニ依ル肺結核ノ治療

(鴻上抄)

T. Stenberg.

血液像竝ニ赤血球沈降速度ノ測定等ニ依ルニ、滲出型ノ者ニテハ著シク症狀ノ佳良ニ趣クヲ認メル。増殖性ノモノテハ、大氣療法及特殊療法ヲ兼ヌルコトニ依ツテ最モ良イ效果ガアル。例ヘバ「ツベルクリン」金製劑或ハ其他ノ刺戟療法ノ如キモノト「ヘルピン」ノ如キ類脂體製劑ヲ伍用スルコトデアアル。單ニ一般ノ狀態ガ良クナル計リテナク、理學的ノ所見及免疫生物學的反應上ニ於テモ良果ガ上ゲラレル。萎縮性ノモノテハ新陳代謝及消化ノ狀態ヲ考慮シテ治療ヲ行ハズバナラス。

治療中發熱及竈反應ハ認メラレナイ、血液像竝ニ赤沈反應上ニ惡變ヲ起シタコトハ決シテナイ。

(鴻上抄)

43、肺結核患者ノ「ゾルガナール」治療

(.: Hacker.

「ゾルガナール」ハ「クリゾルガン」ニ於ケルガ如ク治療後蛋白質尿ヲ認ムルコトナク、大量ヲ使用スルコトガ出來テ、最モ好イ藥劑デアアルト思フ。注意シテ大量ヲ使用サレバ、増殖性及増殖萎縮性結核ニ於テハ満足ス可キ結果ヲ得ル。時トシテハ甚ダシク顯著ナ良結果ヲ見ルコトモアル。

陳舊ナ第三期滲出型結核ニハ、凡ベテノ刺戟療法ハ不適當デアツテ、金製劑

モ亦同様ニ應用ヲ慎ム可キモノデアアル。「ゾルガナール」治療ト人工氣胸術或ハ「レントゲン」放射療法ヲ伍用スレバ良果ノアルコトガアル。「ゾルガナール」ノ治療ハ腸結核ヲ合併セル場合、或ハ著シク體力ノ消耗セル進行シタ結核患者ニハ不適當デアアル。

(鴻上抄)

44、結核ニ起ル肝硬變ノ臨牀ニ就イテ

A. Kirch.

臨牀的ニ結核性肝硬變ト看做サレタ一例ニ於テ、其ノ解剖學上及組織學的検査ノ結果、診斷ノ全ク一致セルモノデアアルコトヲ確メタ。臨牀上ニハ肝臟ハ硬クテ結節狀ヲ呈シテ居ルガ「レンチツク」氏萎縮症ノ如キ著大ニ硬イ脾臟ガナイ。腹水ガ缺如シテ居ル。機能検査上ニ於テモ亦「レンチツク」氏萎縮症ト異ツテ「パウエル」氏ノ「ガラクトーゼ」反應ハ陰性デアアル。「ウロビリリン」尿ハ稍々中等度ニアル。

(鴻上抄)

45、慢性肺結核症ニ於ケル脾臟ノ組織學的變化

Jh. Petroff

網狀織内被細胞ガ著明ニ現レ、肥大ヲ示シ、喰盡機能が甚ダ顯著デアアル。細胞核ノ分裂ハ稀レデアアルカラ是等細胞ノ著明ニ現ハレル原因ハ該細胞ガ増殖スル計リテナク、他ノ細胞ガ消失スルニアルモノト推定セラレル。此ノ點ニ關シテハ、先ヅ第一ニハ小淋巴球ヲ考ヘズバナラス。濾胞内ノ小淋巴球ハ減少シテ居ル、屢々核ノ壞死ノ狀態ガ窺ハレル。是ト同時ニ、大淋巴球モ減少セルモノト思ハレル、ナセナレバ核ノ分裂像ガ稀レテ壞死ノ像ガアルカラデアアル。殆ンド恒存的ノ現象トシテハ、大小様々ナ「ブラスマ」細胞ノ出現スルコトデアツテ、此ノモノハ主トシテ赤髓内ニ瀰漫シテ居ル。脾臟組織ノ脂肪

含有量ハ極メテ僅少デ、「ヘモグロビン」ヨリ生セル色素ハ大量ニアル。

(鴻上抄)

46、血性肋膜滲出液ノ鑑別診断ニ就イテ

A. Mendershausen.

肋膜腔ノ血性滲出液ハ色々原因テ起ルガ、著者ハ久シク其ノ原因ガ不明デアツタモノガ滲出液中ニ綠膿菌ヲ發見シタ一例ヲ詳細ニ報告シテ居ラレル。綠膿菌ニヨル肺炎性浸潤ヨリ血性滲出液ヲ起シタモノデアアルコトガ分明ニヤラレタ。

(鴻上抄)

47、簡單ナ新考案ニ成ル人工氣胸裝置

S. Ch. Bahajeff.

附圖ヲ掲ゲテ説明ヲ加ヘテアル。同好ノ士ニハ參考トナルデアラウ。

(鴻上抄)

48、「テペプロチン」反應強陽性ナル場合ノ判斷

E. Tabe.

結核診斷ノ目的ニ使用セラレル「テペプロチン」反應ニ對スル簡單ナ批判デアアル。

(鴻上抄)

49、皮様囊腫ガ肺臟ニ破裂シタ稀有ナル例

F. Becker.

若イ一女子デ、長イ間劇シイ咳嗽ト惡臭ノアル喀痰及肺出血ヲ訴ヘテ居タ者ニ就イテノ實驗報告デアアル。

(鴻上抄)

結核専門外雜誌

抄 録

50、胸腔ニ於ケル氣管枝結核ニ依ル鼓動ヲ呈セル膿瘍

I. M. Jeger, (Arch. f. Klin. Chirurgie, Bd. 147, 1. 1927.)

二十八歳ノ男デ左側胸部前面鎖骨下ニ拳大以上ノ腫瘍アリ、鼓動ヲ呈シテキルモノデアツタガ、手術ニヨツテ内容ノ排膿ヲハカリ全治シタ一例ヲ報告シテキル。左側胸腔ニ來ル慢性ニ大キクナル、鼓動ヲ呈セル而モ化膿性肋膜炎ノ症狀ナシニ來ルモノハ多ク、氣管枝ノ結核性寒性膿瘍ガ一番問題ニナル。胸廓ニ來ル鼓動ヲ呈セル膿瘍ハ左側ノミデアアル。胸廓ノ右側ニ來ル場合ハ多ク大動脈瘤ガ問題ニナル。鼓動ヲ呈セル膿瘍ハ其ノ破裂スルコトニヨツテ極メテ生命ニ危險ヲ及ボスコトガ多イカラシテ、適宜ニ之ヲ手術スルコトガ必要デアアル。膿腫ニ於テハ大動脈瘤ト異ナリ特有ノ噪音ガナイ。

(大阪、清野抄)

51、先天性結核ニツキテ

K. Scheer.

(Monatschr. f. Kinderheilk. Jbl. 36 Hef. 3. 1927.)

先天性結核ハ古來學者ノ認メテオル所ニシテ Iausser (Cornes) 其他多數ノ人ノ報告例アリ。然レドモ著者ハ此中三十八例ヲ嚴選シ、之ガ確ニ先天性結核ナリト斷定シ、更ニ之ニ著者ガ嚴密ナル注意ノモトニ實驗セル五例ヲ茲ニ追加報告セリ。傳染機轉ニツキテハ種々ノ説アリ。結核菌ハ胎盤ヨリ臍靜脈アランチー氏管ヲ經テ、胎兒ノ肝門ニ入り、此部ニ主ナル病變ヲ起スト云フ説 (Cornes) 及ビ Schmorl 門下生(眞脫落膜ニ限局セル結核性病變ノ破壊シテ羊水ヲ汚染シ、子宮腔内ニテ胎兒ハ之ヲ嚥下又ハ吸引シ、爲ニ氣道ニ主ナル變化ヲ起スト云フ説 (Sivanfrey) 結核母體ヨリ胎兒ニ移行セル結核菌ハ、一定期

含有量ハ極メテ僅少デ、「ヘモグロビン」ヨリ生セル色素ハ大量ニアル。

(鴻上抄)

46、血性肋膜滲出液ノ鑑別診断ニ就イテ

A. Mendershausen.

肋膜腔ノ血性滲出液ハ色々原因テ起ルガ、著者ハ久シク其ノ原因ガ不明デアツタモノガ滲出液中ニ綠膿菌ヲ發見シタ一例ヲ詳細ニ報告シテ居ラレル。綠膿菌ニヨル肺炎性浸潤ヨリ血性滲出液ヲ起シタモノデアアルコトガ分明ニヤラレタ。

(鴻上抄)

47、簡單ナ新考案ニ成ル人工氣胸裝置

S. Ch. Bahajeff.

附圖ヲ掲ゲテ説明ヲ加ヘテアル。同好ノ士ニハ參考トナルデアラウ。

(鴻上抄)

48、「テペプロチン」反應強陽性ナル場合ノ判斷

E. Tabe.

結核診斷ノ目的ニ使用セラレル「テペプロチン」反應ニ對スル簡單ナ批判デアアル。

(鴻上抄)

49、皮様囊腫ガ肺臟ニ破裂シタ稀有ナル例

F. Becker.

若イ一女子デ、長イ間劇シイ咳嗽ト惡臭ノアル喀痰及肺出血ヲ訴ヘテ居タ者ニ就イテノ實驗報告デアアル。

(鴻上抄)

結核専門外雜誌

抄 録

50、胸腔ニ於ケル氣管枝結核ニ依ル鼓動ヲ呈セル膿瘍

I. M. Jeger, (Arch. f. Klin. Chirurgie, Bd. 147, 1. 1927.)

二十八歳ノ男デ左側胸部前面鎖骨下ニ拳大以上ノ腫瘍アリ、鼓動ヲ呈シテキルモノデアツタガ、手術ニヨツテ内容ノ排膿ヲハカリ全治シタ一例ヲ報告シテキル。左側胸腔ニ來ル慢性ニ大キクナル、鼓動ヲ呈セル而モ化膿性肋膜炎ノ症狀ナシニ來ルモノハ多ク、氣管枝ノ結核性寒性膿腫ガ一番問題ニナル。胸廓ニ來ル鼓動ヲ呈セル膿瘍ハ左側ノミデアアル。胸廓ノ右側ニ來ル場合ハ多ク大動脈瘤ガ問題ニナル。鼓動ヲ呈セル膿腫ハ其ノ破裂スルコトニヨツテ極メテ生命ニ危險ヲ及ボスコトガ多イカラシテ、適宜ニ之ヲ手術スルコトガ必要デアアル。膿腫ニ於テハ大動脈瘤ト異ナリ特有ノ噪音ガナイ。

(大阪、清野抄)

51、先天性結核ニツキテ

K. Scheer.

(Monatschr. f. Kinderheilk. Jbl. 36 Hef. 3. 1927.)

先天性結核ハ古來學者ノ認メテオル所ニシテ Iausser (Corns) 其他多數ノ人ノ報告例アリ。然レドモ著者ハ此中三十八例ヲ嚴選シ、之ガ確ニ先天性結核ナリト斷定シ、更ニ之ニ著者ガ嚴密ナル注意ノモトニ實驗セル五例ヲ茲ニ追加報告セリ。傳染機轉ニツキテハ種々ノ説アリ。結核菌ハ胎盤ヨリ臍靜脈アランチー氏管ヲ經テ、胎兒ノ肝門ニ入り、此部ニ主ナル病變ヲ起スト云フ説 (Corns) 及ビ Schmorl 門下生(眞脫落膜ニ限局セル結核性病變ノ破壊シテ羊水ヲ汚染シ、子宮腔内ニテ胎兒ハ之ヲ嚥下又ハ吸引シ、爲ニ氣道ニ主ナル變化ヲ起スト云フ説 (Sivanfrey) 結核母體ヨリ胎兒ニ移行セル結核菌ハ、一定期

間潜伏シ或時期ニ於テ種々ノ部位ニ病變ヲ起スト云フ説 (Kammarten) 等々アリ。著者ノ實驗セル五例ハ「フランクフルト」大學產婦人科ニ結核母體ヨリ分娩セラレ、直チニ同小兒科病室ニ隔離入院セシメテ症狀ヲ觀察シ、死後ハ Prof. Fischer 執刀剖檢セルモノナリ。小兒ハ何レモ體重一・九〇〇疋乃至二・四〇〇疋生後一乃至二週ハ普通ニ發育シ體重モ此期間漸次増加スルモ、三乃至四週目ヨリ熱、咳嗽、其他ノ症狀ヲ現シ、生後二十六日乃至六十八日目ニ死亡セリ。剖檢ノ結果内四例ハ主ナル變化ハ肺、氣管枝淋巴腺ニアリテ肝臟ニ異常ナシ。即チ氣道ノ傳染ヲ肯定シ他ノ一例ハ肝門部ニ主ナル變化アリテ臍靜脈ヨリノ傳染ヲ想像セシム。

一九一五年ヨリ一九二六年迄ノ調査ニヨルニ乳兒ノ結核報告例九六例アリテ、内先天性結核ハ著者ノ五例ノミ(五%)診斷ハ甚ダ困難ニシテ、豫後ハ一般ニ不良ク生存セル例ナシト。

52、舌根部結核腫ニ就テ

外山哲二郎

(京都府立醫科大學雜誌、第一卷、第二號、昭和二年七月)

五十四歳ノ男子及四十九歳ノ女子ニ於テ、舌根部ニ結核腫ノ發生ニ就キ、其臨牀的及組織的變化ニ就テ報告シテキル。兩例共ニ肺、喉頭及頸部淋巴腺ニ結核病變ヲ認メ、喀痰中ニ結核菌ヲ證明シテキル點カラシテ、本腫ハ續發性ノモノナリト論ジ、其組織内中ニハ結核菌少キヲ以テ結核腫發生ノ主要ナル原因及患者ノ年齢、舌根扁桃腺ナドガ之レニ向ツテ何等カノ意義ヲ有シテ居ルモノテハナイカト思考シテキル。結核腫ノ組織的所見ハ上皮ノ増殖並ビニ結核結節ノ乾酪變性少キコトヲ附言シテキル。尙此ノ方面ノ獨逸ニ於ケル文献ヲ列記シテキル。

(清野抄)

53、舌ノ結核

Van. H. Feldman. (The Amerc. J. of Pathol. Vol. III. No. 3. 1927.)

一九一六年以來アメリカニ於テ報告サレタル舌結核ノ殆ンド全部ヲ蒐集シ、之レヲ初發及二次的病變、或ハ年齢的ニ列記シ、自己ノ二例ヲ追加シテ過去十年間ニ於ケル五十二例ニ就キ批判ヲ加ヘテキル。之レニヨルト男子ニ於テハ女子ヨリ其罹患數五倍モ多イ。罹病年齢ハ平均四二、七歳テアメリカニ於ケル此ノ方面ノ文献ヲ列記シテ居ル。

(清野抄)

54、肺結核カ肺微毒カ

醫學博士 中院 孝 圓

(治療及處方第八年第八卷一九二七年十二月號)

著者ハ此兩疾患ノ臨牀的鑑別診斷ヲ的確ニ下スハ難問ナルコトヲ述ベ更ニ一實驗例ニ就キ精細ナル研究報告ヲナセリ、左ニ大略ヲ摘録セバ患者ハ六十五歳ノ農夫ニシテ娘四人ハ結核ニテ死亡孫一人目下頸腺結核他ハ結核ナシ本人ハ生來健康ニシテ昨年五月寒冒爾來喀痰咳嗽アリ時ニ血痰アリ右胸痛甚シクビルケー氏反應陽性ナルモ結核菌陰性「レントゲン」寫眞右胸部肺門部ヨリ右乳腺上、上ハ第二肋骨ノ高サ下ハ第四肋骨ニ互リ即チ右胸部ニ於ケル打診上濁音界ニ一致セル濃厚ナル大體類圓形ヲ呈スル陰影ヲ證明セリマイニツケ氏微毒反應(土)喀痰ハ粘稠ニシテ肉汁色ヲ帶ビ魚ノ臟腑ノ腐敗セシモノ、如シ檢尿其他變ナシ暫次増悪シテ二月三日死亡剖檢上ノ變化ハ殆ンド右肺上中葉ニ限ラレ顯著多數ノ乾酪變化竈ト空洞トアリ其間ハ癆痕化シ炭粉沈著ガ著シク高度ノ肋膜肥厚、癒著ト膿胸トガアリテ一見結核テアルガ不思議ナコトハ粟粒結核結節ヤ石灰化セシ結節が見當ラナイ肺門淋巴腺ノ結核變化モ見當ナイ、ト云フテ微毒「グンマ」ト確ニ認メラル、様ナモノモ見當ラナイ、ソコテ

肺ノ種々雑多ノ部分カラ澤山ノ組織片ヲトリ他臟器ト共ニ精細ナル組織學的研究ノ結果結核粟粒結節ハ全然ナク其他ノ結節モ認メズ乾酪變性ハ概シテ瀰蔓性ニ廣ク來ル傾向ヲ示シ結締織増殖ガ殊ニ高度デ如何ニモ癆痕化シタ狀態ガ著シイ、モ一ツ他ノ特徴ハ血管殊ニ小動脈内層ノ結締織性肥厚ガ極メテ高度ニシテ所謂閉鎖性動脈内膜炎ト云フ狀態テ管腔ノ閉鎖セルモノガ少ナクナイ又中膜及靜脈周圍ニ於テ淋巴球「プラスマ」細胞ノ輕度ノ浸潤モアリ壞死部附近ニハ彈力纖維殘存シ念ノ爲メ數同種々部分組織片ニツキ結核菌染色ヲ試ミシモ常ニ陰性ナリシ云々。

55、結核ノ絮狀反應(凝折反應)

醫學博士 三友 義雄

(治療及處方第八年第八卷、一九二七年、十二月號)

著者ハ本研究ニ就テ種々ナル文獻ヲ引用サレ前後四回ニ互ツテ結核ノ血清學的研究ニ於ケル最近ノ趨勢ノ大要ヲ述ベラレシモノニシテ最後ニ曰ク之レヲ通覽スルトキ互ニ一長アレバ一短アツテ補體結合反應ヲ除イテハ何レヲ吾人臨牀家ノ指針タラシムベキカ惑ハザルヲ得ズ云々。

56、實際的喀血療法

醫學博士 菅沼 清次郎

(診斷ト治療第十四卷、第十二號、一九二七年、十二月號)

著者ハ本問題ヲ實驗醫學ノ立場ヨリ1、出血臟器ヲ安靜ナラシムルコト2、出血血管ヲ狹縮セシムルコト、3、出血血管内ニ血流ヲ緩徐減少セシムルコト4、出血管内ニ血壓ヲ降下セシムルコト、5、「フィブリン」母體增加セシムルコト、6、凝固現象ヲ促進セシムルコトノ此ノ六ヶ條ノ孰レカニ適應シ綜合的ニ影響シ初メテ止血ノ效ヲ奏スルモノトシ。

機械的止血法中最モ重要ナルハ(一)ハ精神的及身體的ノ安靜ヲ計ルコト小循環血壓ハ大循環系血壓ノ影響ヲ受クルコト甚ダ少ナク(二)ハ臥位轉換(三)ハ鎮靜劑ノ應用ニ就テ種々論議アルコトヲ記載サレ(四)ハ人工氣胸又項ヲ改メテ化學的生物学的止血法ヲ論ジ最後ニ止血第六ノ條件ニテ最モ重要ナルハ直接ニ血液總體ニ作用シテ其凝固現象ヲ促進セシムルニ在テ終リニ喀血ノ實際療法トシテ每當實行スベキ一〇・〇%食鹽水五乃至一〇%珪ノ靜脈内ニ注射シ次テ一〇・〇%ノ「クロールカルチウム」液又ハ「葡萄糖液五乃至一〇%」珪ヲ注射ス而シテ是等ノ效果ハ一時性ノモノナレバ毎日反復スベキカ或ハ食鹽又ハ「ブロームナトリウム」五乃至一〇・〇瓦ヲ數回ニ分服尙股關節ニ近ク兩下肢ヲ足背動脈々搏消失セザル程度ニ緊縛シ十五分乃至二十分ノ後徐々ニ解除シ一日數回反復ス、胸部冰嚢ノ貼付及冰片ノ嚙下等ハ喀血ノ初期ノミ一時的ニ應用スルハ可ナルモ數日ニ互ルハ無意義ナリ斯クシテ奏效不足ナルトキハ初メテ「ゲラチン」注射ヲ行フ云々。

57、上氣道結核ニ於ケル赤血球沈降速度ニ就

キテ

東北帝大醫學部耳鼻喉科教室 木村 謙次

大日本耳鼻喉科會報昭和二年十二月號、第三十三卷、第九號

著者ハ上氣道結核三十六例ニ就キテ、肺及喉頭ニ於ケル病變ノ程度、輕重、其病型ヲ確定シ其經過中ニ於ケル赤血球沈降現象ヲ推移ヲ詳細ニ觀察シ、臨牀上大ナル意義アルコトヲ察知シ得テ左ノ如ク結論セラレタリ。

(一)健康體ノ赤血球沈降速度ハ、男子ニアリテハ一時間平均一・九耗、女子ニアリテハ四・〇耗ニシテ其比ハ一・二・一ナリ。

二十四時間ニアリテハ男子五三・四耗、女子七二・三耗ニシテ其比ハ一・一・四

ナリ。

(二) 肺兼上氣道結核症ニアリテハ赤血球沈降速度ハ肺結核症ノミノモノニ比シ一般ニ大ナリ。

(三) 肺兼上氣道結核症ニアリテハ赤血球沈降速度ハ疾病ノ増悪スルニ從ヒ一般ニ増大ス。此關係ハ第一期及第二期肺兼喉頭結核症ニ於テ殊ニ著明ナリ。第三期肺結核症ノ場合ニハ餘リ著明ナラズ、蓋シ沈降速度ハ主トシテ全身ニ於ケル結核病變ノ總和ニ左右セラル、モノニシテ第三期肺結核症ニアリテハ肺ノ病變増進ノ爲メ他部ニ於ケル病變ヲ加フルモ、屢々サシタル影響ナキニヨルナラン。

(四) 第一期肺兼喉頭結核症ニアリテハ沈降速度ハ一時間平均二〇乃至三〇耗ヲ往復シ、五〇耗以上ニ達スルコト稀ナルニ反シ第二期肺兼喉頭結核症ニアリテハ五〇耗以下ナルコト稀ナラザルモ、又一方五〇乃至九〇耗以上ニ達スルコトアリ。此レ一方ニハ病變ノ進行期ニ關係スルモ、又他方疾病ノ活動性ニ關係スルコト大ナルモノアレバナリ。

(五) 喉頭結核症ニアリテハ其病變ガ沈降速度ニ影響アリ、即チ滲出型ハ造形型ニ比シ速度著シク大ナリ。

(六) 惡液質ニ陥リタルモノハ喉頭所見ノ如何ニ係ラズ其速度比較的緩慢ナリ
(七) 臨牀上所見ノ輕快セル場合ニハ、赤血球沈降速度遅緩セラレ増悪アル場合ニハ促進セラレ。

(八) 「レントゲン」線照射、「トリファール」靜脈内注射等ノ治療法ハ赤血球沈降速度ニ影響ヲ及ボス。治療ノ結果良好ノ經過ヲトレルモノハ體內免疫體ノ增加ニヨリテ其速度遅緩トナリ、經過不良ノモノハ持續的ニ其速度ノ促進セラル、ヲ見ル。

(加藤抄)

會報並ニ雜報

○最近入會者

赤澤 琢三 京都帝國大學醫學部小兒科教室
古川 利雄 小石川區竹早町一二四
金子 悟 神田區和泉町泉橋慈善病院醫局
黒川 透 福岡縣郡山市郡山病院

北京聯合醫科大學 支那北京

岐阜縣結核豫防協會

岐阜警察部衛生課

守屋 眞一 岐阜市春日町

飯沼 守一 岐阜市美江寺町

山田 義彦 岐阜市忠節町

宇佐美 宗雄 岐阜市鞆屋町

富田 龍藏 岐阜市高森町

天野 純平 岐阜市西川端町

久保田 道夫 岐阜縣稻葉郡長良村

大野 黎 岐阜縣安八郡墨俣町

高木 信太郎 岐阜縣武儀郡金山町

○國際結核豫防協會大會

國際結核豫防協會ニ於ケル實行委員會ハ、昨年九月廿八日巴里ニ會合シ、